



マツダミヒロ

質問家。「魔法の質問」主催

仕事と遊び、
区切りはなく
すべてが繋がっている



ライフスタイルとは、
人生で大切なことを体現したカタチ

マウイで目の前の海を眺めながら、テラスでタンデライオンコーヒーを飲む。そして「今日はどんな1日にしよう?」そんな問いかけから1日が始まっていきます。

今日もそうですが、明日も明後日も予定は何も決まっています。

その日1日の過ごし方は、妻と2人で話し合っていて決めています。

今では年間300日くらいは海外にいるのですが、過ごし方、暮らし方は世界中どこに行っても変わりません。

ちなみに二〇一七年は、沖縄、オーストラリアのバイロンベイ、インドネシアバリ島、ベルギー、スリランカへ。夏はバルセロナやアテネ、ベネチアをはじめヨーロッパ20都市くらいをまわり、マウイ、そして最後はまた

バイロンベイとたくさん都市に滞在しています。ただ、世界各国をまわる中、両親との時間も大切にしたいので毎月実家の山形県に帰っています。

そして、常にどこに行くにも夫婦で一緒にいます。

こんなふうに言うと、よく「すごい」と言われるのですが、そもそも300日以上海外で暮らすことを目指していたわけではないのです。

「どんな夢を実現したいのか?」ではなく「どんな過ごし方をしたいのか?」と夫婦で毎日対話をし、そこで出てきた答えを大切に行動していきます。

各国を訪れ友達ができるようになると、またその友達に逢いに行きそれを繰り返していったら、「こっになって」いました。

ワークスタイルはあるけれど、ライフスタイルはなかった

けれど、昔の僕は今とまったく違いました。昔は、ライフスタイルではなくワークスタイルがすべてでした。

ワークスタイルはもっているけれど、ライフスタイルはもっていない。

ワークスタイルがライフスタイルの多くを占めている状態でした。ですので、ほぼ仕事です。

僕は、一九九六年、大学卒業後すぐにホームページの制作やテレビCMをつくるデザイン会社を立ち上げました。

当時はまだインターネットが普及し始めたころです。他にライバルがいなかったので仕事の依頼も殺到。あっといいうまに忙しい日々が始まりました。従業員の仕事が終わっても一人で残業し会社に残っている、そんな経営者でした。

